

平成22年 1月 8日

各 位

株 式 会 社 関 門 海
代表取締役会長CEO兼社長COO
谷 間 真
(コード番号：3372 東証マザーズ)
問合せ先 取締役・経営支援部長
原 真理
電 話 番 号 06-6578-0029 (代表)

特別損失の計上及び業績予想の修正、役員報酬の減額に関するお知らせ

業績の動向を踏まえ、特別損失を計上するとともに、平成21年7月10日の平成21年11月期第2四半期決算短信発表時に公表した平成21年11月期(平成20年12月1日～平成21年11月30日)の連結業績予想および平成21年1月15日の平成20年11月期決算短信発表時に公表した平成21年11月期(平成20年12月1日～平成21年11月30日)の個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、これを受けまして、経営責任を明確化するため役員報酬の減額を実施することといたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社は、研究開発型外食事業において、事業をとりまく環境の大きな変化等により収益性が低下した直営店舗6店舗について、将来の回収可能性を保守的に検討した結果、連結及び個別において47百万円の減損損失を特別損失として計上いたします。

2. 平成21年11月期の連結業績予想の修正

(1) 平成21年11月通期 連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	11,300	340	265	85	1,414.92円
今回修正予想(B)	10,816	130	49	151	2,523.41円
増減額(B - A)	483	209	215	236	-
増減率(%)	4.3%	61.7%	81.2%	-	-
(ご参考) 前期実績(平成20年11月期)	11,313	438	374	155	2,569.15円

(2) 業績予想の修正の理由

売上高は、研究開発型外食事業が、とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」、回転寿司「すし兵衛」の個人消費の低迷による客数の減少及び客単価の低下による店舗売上の減少を主たる要因として328百万円、総菜宅配事業が計画した新規顧客獲得が振るわなかったことにより210百万円の未達となり、連結では業績予想に対して483百万円減の10,816百万円となる見通しであります。

利益につきましては、研究開発型外食事業の売上高の未達、繁忙期に備えた人材採用等を主たる要因として利益額が減少し、営業利益は業績予想に対して 209 百万円減の 130 百万円、経常利益は業績予想に対して 215 百万円減の 49 百万円となる見通しであります。

また、当期純利益につきましては「玄品ふぐ」等の一部不採算店舗の減損損失計上及び繰延税金資産の取崩計上等により、業績予想に対して 236 百万円減の 151 百万円の損失計上となる見通しであります。

3. 平成 21 年 11 月期の個別業績予想の修正

(1) 平成 21 年 11 月通期 個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	6,000	270	300	100	1,647.45円
今回修正予想(B)	5,837	105	137	25	428.91円
増減額(B - A)	162	164	162	125	-
増減率(%)	2.7%	61.0%	54.3%	-	-
(ご参考) 前期実績(平成20年11月期)	7,056	556	583	281	4,641.33円

(2) 業績予想の修正の理由

連結業績予想の修正の理由として記載いたしましたとおり、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の売上高の未達、繁忙期に備えた人材採用、不採算店舗の減損損失計上等を主たる要因として、業績予想に対して売上高は 162 百万円減の 5,837 百万円、営業利益は 164 百万円減の 105 百万円、経常利益は 162 百万円減の 137 百万円、当期純利益は 125 百万円減の 25 百万円の損失計上となる見通しであります。

4. 役員報酬の減額

通期業績予想の修正を厳粛に受け止め、経営責任をより一層明確にするため、以下のとおり当社及び連結子会社の取締役の役員報酬の減額を実施いたします。

- ・当社及び連結子会社の取締役は各々の責任・報酬額に応じて、2%から25%を減額。
- ・本措置は、平成 22 年 11 月期中 1 年間の実施とし、さらに業績の回復が見られない場合は継続する。

以上